施工業者の方へ

施　工　要　領　書

人工透析廃水専用 pH 調整装置
フジクリーンＦＪＰ型

●この度は、人工透析廃水専用 pH 調整装置ＦＪＰ型をお買いあげいただき、
誠にありがとうございました。
●この「施工要領書」をよくお読みになり、正しい施工を行ってください。

工事店（施工業者）の方へ

●工事前には、必ず関係官公庁に所定の申請書を提出して、許可を得てください。
●労働安全衛生法など諸法令を守り、安全に施工してください。
●電気工事は、必ず電気工事士の資格をもつ専門業者に依頼してください。
●工事を行う前には、部品が揃っていることを確認してから工事を進めてください。
●必ず近くに散水栓があることを確認してください。

目　　次

１．取扱に関する注意 …… 1
２．機器一覧表 …… 4
３．設置工事 …… 6
４．特殊工事 …… １０
５．アフターサービスについて …… １３
＜参考＞工事のチェックリスト …… １４

注意

施工要領書本文に出てくる警告、注意表示の部分は、人工透析廃水専用pH調整装置の施工前に必ずお読みになり、よく理解してください。

美しい水を守る
フジクリーン工業株式会社

1．取扱に関する注意

この施工要領書で使われている表示マークには、次のような意味があります。表示と内容を必ずお読みになり、よく確認してください。

⚠ 警告	⚠ 注意
取扱を誤った場合に使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定されます。	取扱を誤った場合に使用者が傷害を負う危険および物的損害※ の発生が想定されます。

※　物的損害とは家屋・家財および家畜・ペットに関わる拡大損害を示します。

1－1. 取扱に関する注意

⚠ 警告　1）感電・発火事故防止

●電気配線工事は、電気工事士の資格をもつ電気工事業者に依頼してください。
●端子ネジのゆるみが無いか、確認してください。
これらの注意を怠ると、感電・発火事故の生ずるおそれがあります。

⚠ 注意　2）マンホール・点検口などからの転落・傷害事故防止

●マンホールは、積載荷重に応じて適正なものを使用してください。
●工事中は、必要なとき以外はマンホール・点検口のフタを必ず閉めてください。
●マンホール・点検口のフタのひび割れ・破損などの異常を発見したら、直ちに取り替えてください。
これらの注意を怠ると、転落・傷害事故の生ずるおそれがあります。

⚠ 注意　3）傷害事故防止

●ユニット又は槽の吊り上げ・据え付けは、玉掛け作業で行ってください。
●吊り荷の下には立ち入らないでください。
●適正な吊り上げ角度で必ず４点吊りしてください。
●槽の据え付け時には、落下や衝撃を与えないように静かに行ってください。
これらの注意を怠ると、傷害事故の生ずるおそれがあります。

⚠ 注意　4）転落事故防止

●埋設工事に際して、穴を掘った周囲には、防護柵を作り、関係者以外立ち入らないようにしてください。
●据え付け後の水張り、浮上防止金具の取り付け作業は足場板などで養生して行ってください。
これらの注意を怠ると、転落事故の生ずるおそれがあります。

⚠ 注意　5）薬剤による傷害事故、器物破損事故防止

●希硫酸及び苛性ソーダは危険物なので取り扱いには十分注意してください。
尚、希硫酸の取り扱いには、特定化学物質作業主任者の資格が必要となります。
●薬品タンク周辺部には防液堤を設け、フェンスなどの立ち入り禁止措置を講じてください。
●薬品タンクには薬品名を表示して鍵を掛け、薬品タンク及びその保管場所には白地に赤文字で「医薬用外劇物」の表示を設けてください。
●タンク周辺には散水栓を設けてください。
●タンクに補充する場合は必ずゴム手袋、保護めがねの着用をお願いします。
●薬品補充用の専用ポンプを使用することを推奨いたします。
●もし、薬品をこぼした時には、すぐに水で洗い流してください。
これらの注意を怠ると、皮膚、衣類、機器、床など薬品が付着したところは、薬品に冒され、大きな傷害事故、器物破損事故の生ずるおそれがあります。

1－2. 一般的留意事項

フジクリーンＦＪＰ型はＦＲＰ装置の設置場所と計装機器の構成により下記の６種類の機種があります。

地上設置型	ＦＪＰ-SC	制御
	ＦＪＰ-SW	制御+監視
	ＦＪＰ-SR	制御+記録
地下埋設型	ＦＪＰ-MC	制御
	ＦＪＰ-MW	制御+監視
	ＦＪＰ-MR	制御+記録

（１） 地上設置の場合は、中和槽ユニットをベースにアンカー（Ｍ１２）で４カ所固定し、水平に調整してください。
薬品タンクはベースにアンカー（Ｍ１０）で４カ所固定してください。
薬品タンクを設置する床は耐蝕仕様としてください。
又、薬品タンクを屋外に設置する場合は、屋根等を設け、雨が薬品タンクに掛からない様に施工してください。
流入管及び放流管を接続してください。
放流管から排気管（臭突管）を取り出してください。
その他の配管及び電気工事は施工要領図を参照してください。
一次側の電気工事（制御盤までの電源及びアース、制御盤からの外部警報）が必要です。

（２）地下埋設の場合は、中和槽を地下埋設、制御盤及び薬注設備は、地上設置となります。
本槽は本書に記載した要領で施工してください。
その他は（１）の地上設置の場合と同様です。

ｐＨセンサーケーブル長が５ｍであるため、中和槽と制御盤の距離が近ければ、ｐＨセンサーのケーブルは直接盤内のｐＨ計に接続することができますが、距離が長い場合は中継ＢＯＸが必要となります。
中継ＢＯＸは中和槽の近く、地上部に設置し、専用ケーブルでｐＨ計と接続してください。

1．工事施工要領書・施工要領図・工事仕様書、その他、諸法令を、確実に守って工事してください。
工事が不完全な場合は、槽の破損による汚水漏れ・放流水質の悪化などの原因になります。

2．危険な薬品を使用しますので、外部の人が近づけないように、装置周辺はフェンスで囲うなどの立ち入り禁止措置を講じてください。
又、薬品がこぼれた時や衣服、皮膚などに付着した場合には、すぐに洗い流せるように、散水栓等を設けてください。

3. 排水は臭気を伴いますので、必ず臭突配管工事を行ってください。

4. 電気工事は、必ず電気工事士の資格をもつ専門業者に依頼してください。

5. 薬品タンク基礎は、防液堤の施行を行い、耐蝕塗装を行ってください。

6. 薬品タンク部が屋外に設置される場合は、雨が掛からない様、屋根等を設けてください。

7. 中和槽埋設工事は、特に基礎工事、埋戻し工事、上部スラブ打設など、施工要領書に基づき正しく行ってください。
また、駐車場や車路に設置する場合、交通量の多い道路のわきに設置する場合、近くの建築物の荷重が槽本体に影響する場合、軟弱地盤に施工する場合、多雪地域に設置する場合などは特殊工事になりますので、槽本体に影響を及ぼさないよう補強工事を行ってください。

8. 中和槽を破損しないように、埋め戻しには、次のような事項に注意し作業してください。
1）水張りのあとに、埋め戻し作業を行ってください。
2）埋め戻しの土は、石などが混入しない良質土（山砂など）を用いてください。
3）埋め戻し時に重機のバケットなどを槽本体に当てたり、高い所から埋め戻しの土を落とさないでください。

9. 中和槽埋設工事に伴う残土・残材は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」で、産業廃棄物となりますので、その規定にしたがって処理してください。

10. 設置工事完了後は、工事チェックリストにて確認してください。（１５ページ参照）

１１. 工事に関して不詳な点は、弊社営業所にお問い合わせください。

2．機器一覧表

2－1．FJP型標準仕様

（1）中和槽地上設置タイプ

型式 / 部品名	ＦＪＰ－ＳＣ	ＦＪＰ－ＳＷ	ＦＪＰ－ＳＲ
中和槽本体・架台	１式	１式	１式
ﾏﾝﾎｰﾙ　蓋・枠φ４５０	２個	２個	２個
撹拌ﾎﾟﾝﾌﾟ	１台	１台	１台
酸ﾀﾝｸ	１台	１台	１台
アルカリタンク	１台	１台	１台
酸注入ポンプ	１台	１台	１台
酸用ホース	１式	１式	１式
酸用サイフォン防止弁	１個	１個	１個
アルカリ注入ポンプ	１台	１台	１台
アルカリ用ホース	１式	１式	１式
アルカリ用サイフォン防止弁	１個	１個	１個
ｐＨ電極、ホルダー	１台	２台	２台
ｐＨ指示調節計	１台	２台	１台
ｐＨ指示調節記録計	－	－	１台
校正液セット	１式	１式	１式
制御盤	１面	１面	１面
取り扱い説明書	１冊	１冊	１冊

※マンホールフタ、枠は本体にバンドで固定されています。

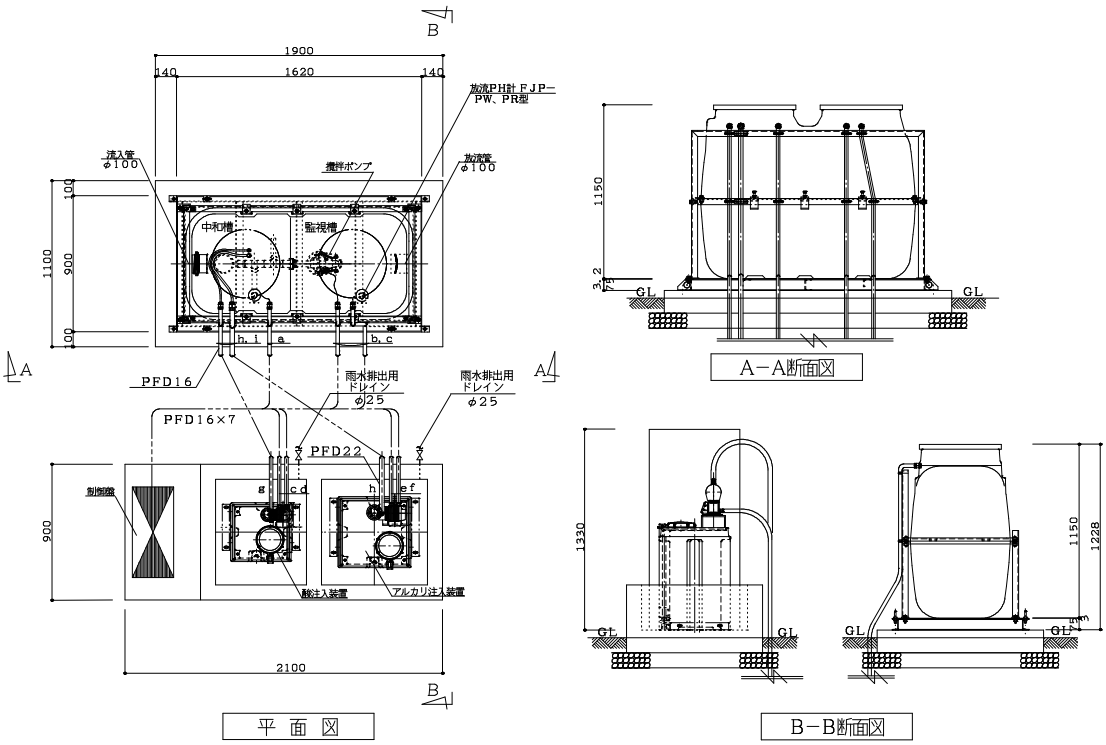
（2）中和槽地下埋設タイプ

型式 / 部品名	ＦＪＰ－ＭＣ	ＦＪＰ－ＭＷ	ＦＪＰ－ＭＲ
中和槽本体	１式	１式	１式
ﾏﾝﾎｰﾙ　蓋・枠φ４５０	２個	２個	２個
撹拌ﾎﾟﾝﾌﾟ	１台	１台	１台
酸ﾀﾝｸ	１台	１台	１台
アルカリタンク	１台	１台	１台
酸注入ポンプ	１台	１台	１台
酸用ホース	１式	１式	１式
酸用サイフォン防止弁	１個	１個	１個
アルカリ注入ポンプ	１台	１台	１台
アルカリ用ホース	１式	１式	１式
アルカリ用サイフォン防止弁	１個	１個	１個
ｐＨ電極、ホルダー	１台	２台	２台
ｐＨ指示調節計	１台	２台	１台
ｐＨ指示調節記録計	－	－	１台
校正液セット	１式	１式	１式
制御盤	１面	１面	１面
取り扱い説明書	１冊	１冊	１冊

※マンホールフタ、枠は本体にバンドで固定されています。

(2)設置参考図及び仕様一覧表

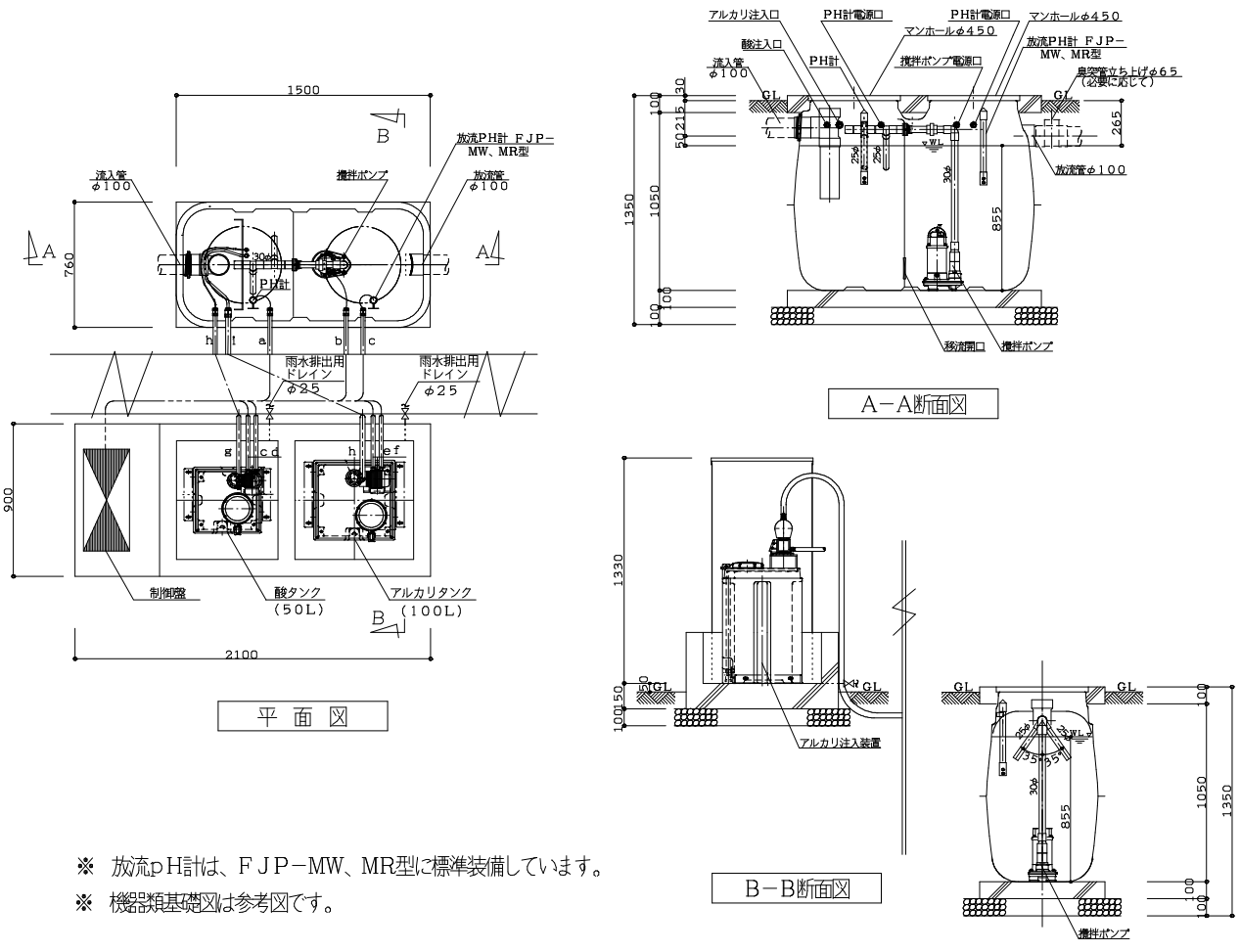
地上設置参考図



※ 放流pH計は、FJP−SW、SR型に標準装備しています。

※ 機器類基礎図は参考図です。

地下埋設参考図



※ 放流pH計は、FJP−MW、MR型に標準装備しています。

※ 機器類基礎図は参考図です。

3．設置工事

3－1．設置場所の選定

工事を行うための次の条件を確認してください。

●設置場所の広さ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥設置図面どおりの広さがあるか。
●配管路の状況‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥配管経路に障害物はないか。
●搬入、搬出路の状況‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥装置の持ち込みができるか。
●設置場所周囲の状況‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥資材置場、工事車両、残土の一時置場があるか。
●土質の良否および湧水の有無‥‥‥土質の状況はどうか。湧水はあるか。矢板など必要か。
●工事電力、工事用水の有無‥‥‥‥‥‥現場で電気、工事用水が調達できるか。
●流入の方法‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥地上流入か地下埋設流入か。
●放流の方法‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥自然放流かポンプアップ放流か。

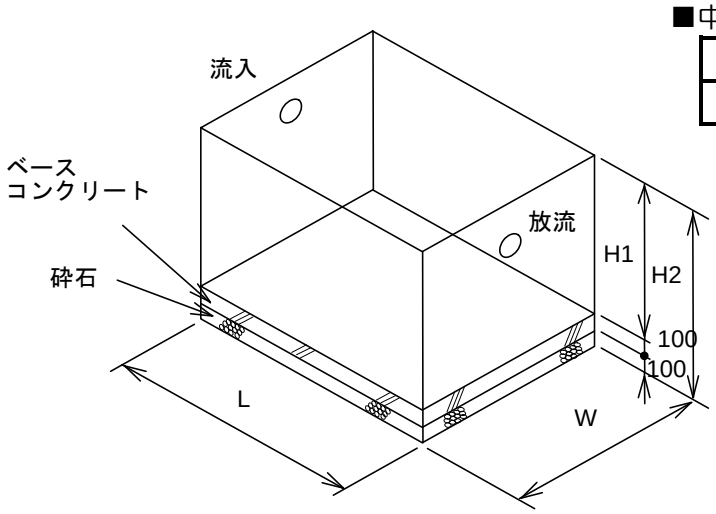
3－2．基礎工事（中和槽地下埋設）

●根伐りは、土砂崩壊がないように地質に応じて、掘削深さとのり面勾配を考慮して、安全な作業を行ってください。（下表参照）

■掘削深さとのり面勾配

地質の種類	掘削面高さ	掘削面	備考
岩盤又は堅い粘土からなる地質	5m未満	90°以下	地質の種類を正しく判断することは難しいため、基準よりも安全な勾配をとり、掘削して下さい。
その他の地質	2m未満	90°以下	
	2m以上5m未満	75°以下	
砂からなる地質	5m未満又は35°以下		

●安全に作業が行われるように適切な余堀（50cm 程度）を行ってください。
●基礎工事は、下表の寸法を参考にしてください。
●既設の建物や工作物が近くにあり、地下水位が高く地山が崩壊するおそれのある場合は、山留めを行ってください。



■中和槽　（単位:mm）

W	L	H1	H2
740	1,500	1,150	1,350

※　標準埋設の場合

３－３．据付工事

●移動式クレーンの運転業務は有資格者が行ってください。

●移動式クレーンの玉掛け業務は有資格者が行ってください。

●槽は必ず水平に据え付けてください。・・・ 水平勾配は1/200以下としてください。

●槽が傾いていると、槽内の水流などに偏りが生じ、処理機能が低下して放流水質が悪化する原因になります。

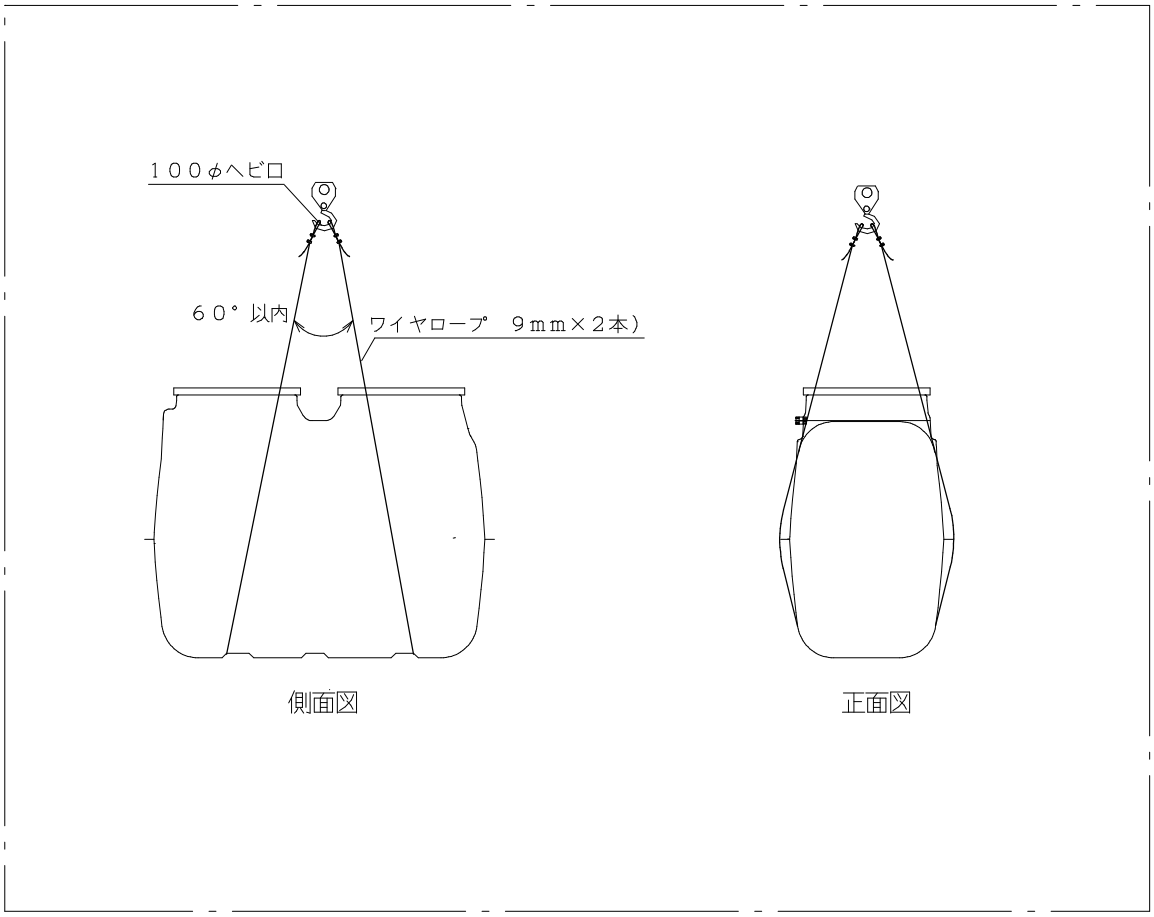
●水準器を槽のマンホール枠に数カ所あてて、槽の水平を出してください。

●ユニットを吊り上げるときは、必ず４点吊りにしてください。

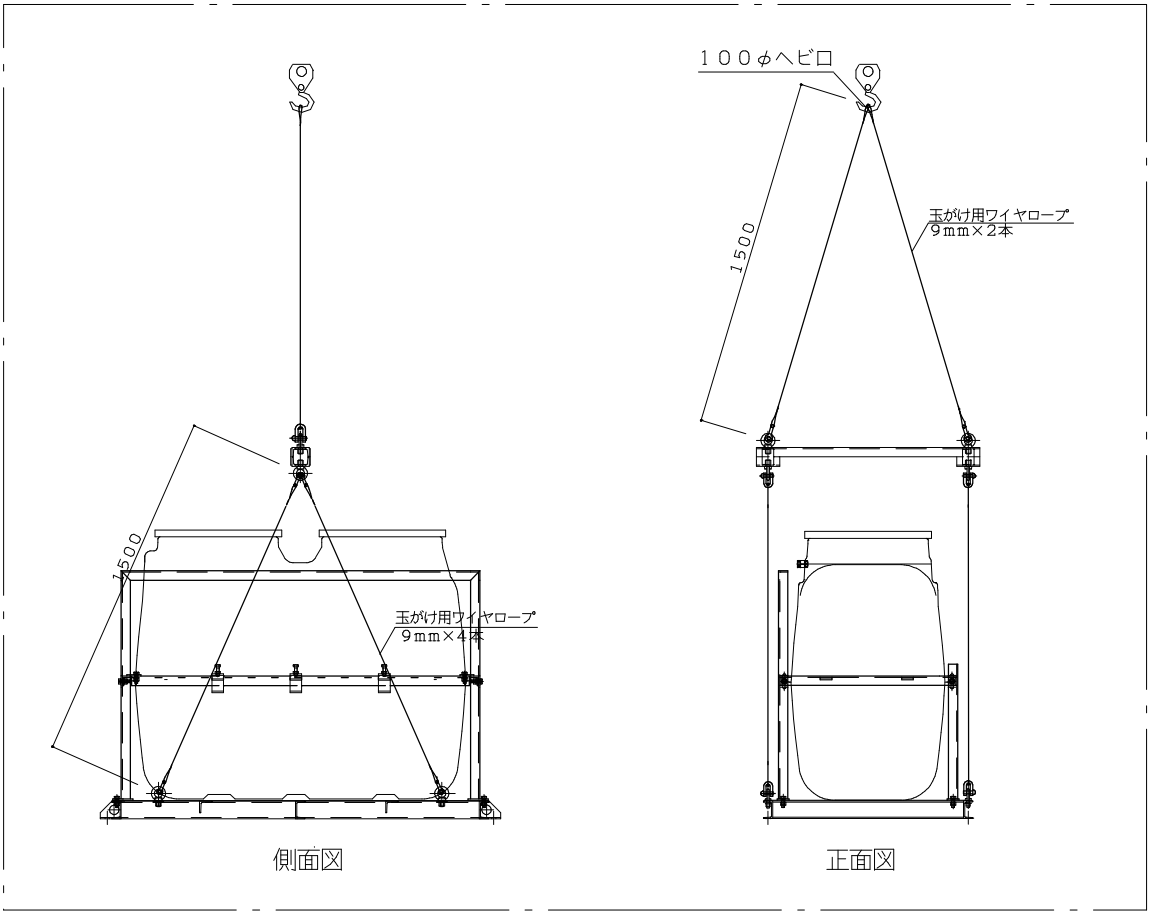
●槽（地下埋設型）を吊り上げる場合は、ワイヤーを２カ所底部に通して吊り上げてください。

●湧水があるときは、浮上防止工事を行ってください。

地下埋設型吊り上げ方法



地上設置型吊り上げ方法



3－4. 埋め戻し工事（中和槽地下埋設）

●埋め戻しの前には、必ず規定水位まで水張りを行って、水平および水漏れの有無を確認してください。

●槽内に土砂が入らないように、マンホールにフタをしてから埋め戻してください。

●埋め戻しの土は、石などが混入しない良質土（山砂など）を用いてください。

●水締めを行いながら埋め戻し、突き棒などで必ず突き固めてください。

3－5. 配管工事

●次の配管材料を準備してください。

流入管、放流管	臭突管	保護管(地下埋設工事)	薬液管（地下埋設工事）
VP100またはVU100	VP100またはVU100	PFD16及びPFD22	ブレードホース 6*φ11、及び12*φ18

●薬液管及び電気ケーブルはＰＦ管を保護管としてください。
●薬液管は槽壁のコネクタに通し、ＰＦ管を保護管として、薬注ポンプに接続してください。
●槽内のホースは図面を参照し、端部に附属のサイフォン防止弁を取付け、サイフォン防止弁吐出口が水没するように施工してください。
●ホースの曲がり部分は、折れ曲がることが無いよう十分余裕をもたせて施工してください。
●詳細は別添、施工要領図を参照してください。

警告 薬注ポンプへの接続に不備がある場合は薬液が漏れ、大きなトラブルになる可能性があります。

●人工透析廃水以外の特殊な廃水や雨水は、絶対に流入させないでください。
●起点、屈曲点、合流点には適正なマスを設置してください。
●流入管、放流管の勾配は 1/100 以上とし、逆勾配にならないように注意してください。
●臭突管は放流配管途中から上向きに分岐し（排水が流れ込まない様に）施工してください。

3－6. 電気配線工事

●機器類に付属している説明書を参考にして、正しく施工してください。

警告 電気配線工事は、電気工事士の資格をもつ電気工事業者に依頼してください。

●制御盤に電源及びアースのケーブル、外部に警報を出力する場合は警報のケーブルを接続してください。

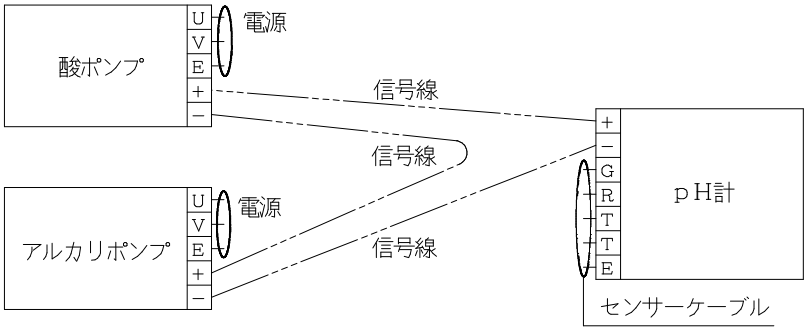
●電気配線配管工事は別添、施工要領図を参照してください。

●中和槽内に取り付けてあるアームにｐＨ電極をセットしてください。電極の専用ケーブルと撹拌ポンプの専用ケーブルを槽壁に取り付けられている、コネクターを通し、ＰＦＤ管を保護管として制御盤設置場所に立ち上げてください。
ｐＨケーブルは制御盤内のｐＨ指示調節計（又はｐＨ指示調節記録計）に接続してください。
接続場所はｐＨ計取り扱い説明書を参照してください。

●ｐＨケーブル長は５ｍとなっていますので、中和槽と制御盤の距離が離れている場合は、中和槽外部近辺の地上部に中継ＢＯＸを設けてください。
ｐＨセンサーのケーブルを中継ＢＯＸに接続し、中継ＢＯＸからｐＨ計まで、専用ケーブルを接続してください。

●薬注ポンプには電源ケーブル（ＣＶケーブル）と信号ケーブル（ＣＶＶＳケーブル）の２本のケーブルが接続されます。制御盤の下部端子には電源ケーブルを接続し、ｐＨ計には信号ケーブルを接続します。配線の方法は施工要領図及びシーケンス図を参照してください。
（参考）

薬注ポンプは制御盤からの電源送りの他にｐＨ計からの信号線が必要です。
アナログ信号（４－２０ｍＡ）はシールドケーブルで接続しています。
薬注ポンプが２台あるため、ループ配線となっています。



●制御盤の漏電遮断機は感度電流が３０ｍＡとなっています。一次側で漏電遮断器をご使用の場合は、感度電流が５０ｍＡ以上のものとしてください。

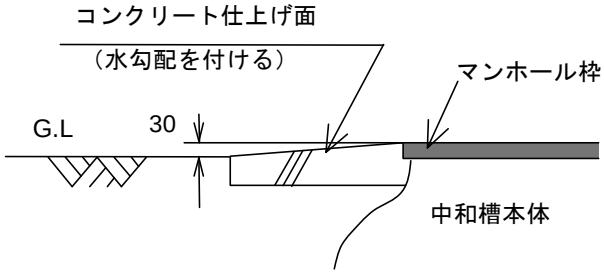
●電源は絶対に遮断しないでください。

●露出の電線管を引っ張ったり、電線管に荷重をかけたりしないでください。
これらの注意を怠ると、漏電・感電・発火の生ずるおそれがあります。

3－7. コンクリートスラブの打設工事

●埋め戻し工事が完了したら、マンホールの周囲にコンクリートを打設します。

●標準埋設の場合は、下図を参考にしてください。

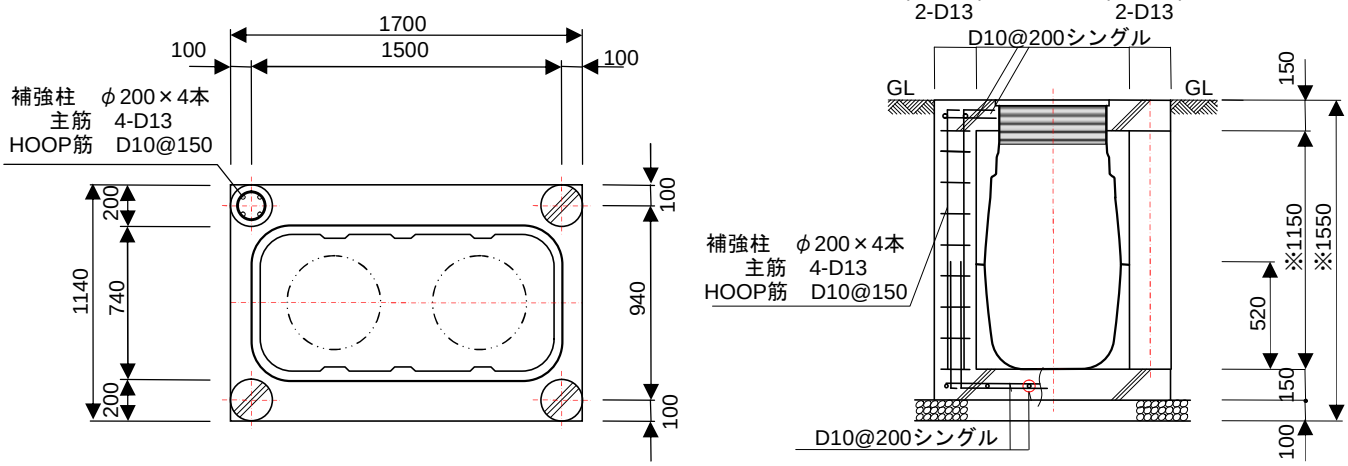


4. 特殊工事

4－1. 駐車場の場合

総重量が 2,000kg 以下の乗用車（１輪あたりの概算重量 500kg 以下）が通る場所に設置する場合は、次の要領で施工してください。それ以上の車が通る場合は、弊社にお問い合わせください。

据付け例　＜乗用車(1輪あたりの概算重量500kg 以下)の場合＞



＜平断面図＞　　＜断面図＞

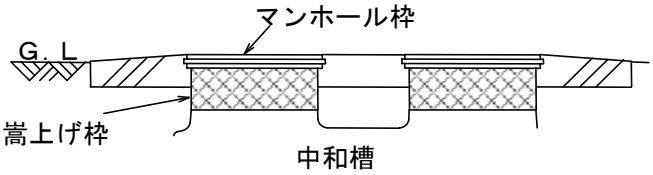
※ 嵩上げ150mmの場合の数値

4－2. 深埋めの場合

深埋めになる場合は、次の要領で施工してください。

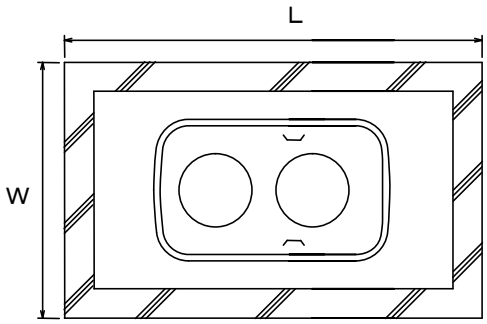
●300mmを越える嵩上げは、絶対にしないでください。
300mmを越えると、大きな土圧が中和槽本体にかかり、装置が変形したり破損のおそれがあります。
●また、保守点検時の操作・作業が十分に行えず、放流水質が悪化する原因になります。

（１）深埋めが 300mm 以下の場合
別売の嵩上げ枠を使用して、嵩上げを行ってください。
＜施工方法＞
１．マンホールを取り外してください。
２．別売の枠付き嵩上げを高さに合わせてカットします。
３．カットした枠付き嵩上げ本体枠に乗せドリルネジなどで固定してください。



（２）深埋めが 300mm を越える場合
原水ポンプ槽を設置して、深埋めを 300mm 以下にしてください。
原水ポンプ槽が設置できない場合は、ピット工事を行ってください。
ピット工事は次の例を参考にしてください。

ピット工事の施工例 よう壁にかかる土圧、上部からの荷重などを充分に検討して、よう壁の仕様を決めてください。

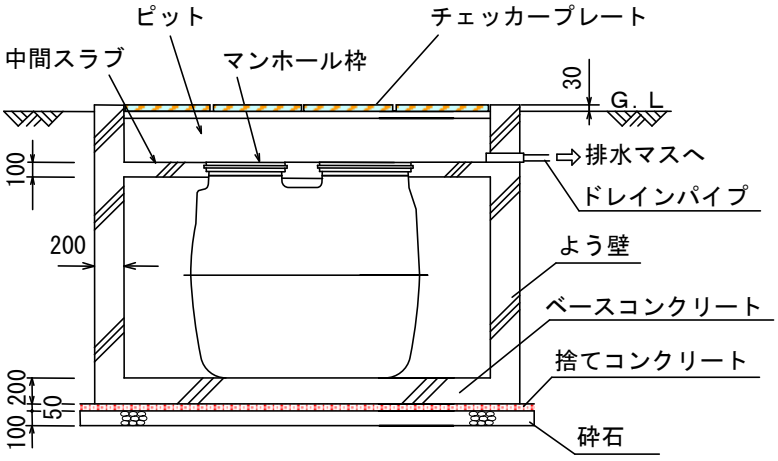


・ 土圧から中和槽を保護するために、中和槽の周囲に、よう壁を設けてください。
・ ピット内には水抜き用のドレインパイプを設けてください。

■寸法（単位:mm）

W	L
1,500	2,200

■配筋仕様

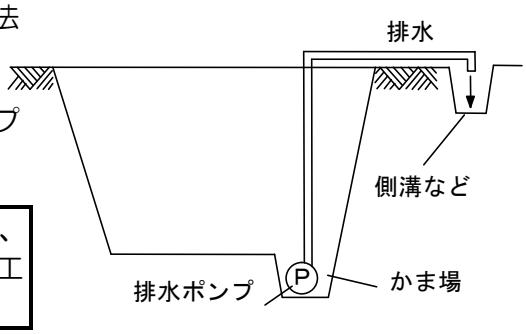


名称	版厚	仕様
よう壁	200	D10@200 ダブル
ﾍﾞｰｽｺﾝｸﾘｰﾄ	200	D10@200 ダブル
中間スラブ	100	D10@200 シングル

4－3. 湧水がある場合

● 地下水の多い場所や軟弱な地盤の場合の掘削は、必ず法面崩壊防止のため適切な施工をしてください。

● 湧水がある場合には右図のようにかま場を作り、ポンプで排水しながら作業を行ってください。



地下水位がベースコンクリート上面より高い場合には、装置の浮上や装置本体の破損を防止するため、浮上防止工事を行ってください。

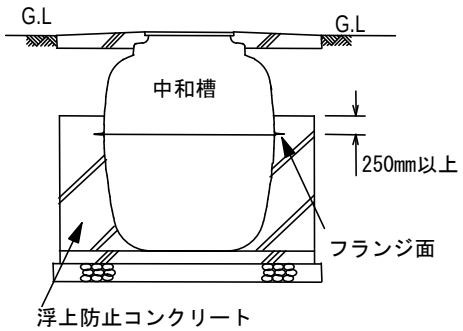
警告 これらの注意を怠ると法面が崩壊し、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

浮上防止工事の例

● 装置の浮上や装置本体の破損を防止するため、本装置の周囲をコンクリート（浮上防止コンクリート）で固めてください。

● この場合、装置本体の外面は布などの柔らかいもので包み、装置が損傷しないよう注意してください。

● 浮上防止コンクリートは、必ず中和槽の内部に規定の水位まで水張りを行ってから打設してください。



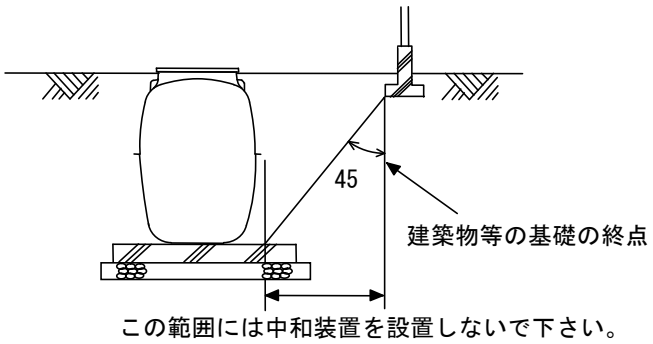
浮上防止コンクリート施工例

４－４. 地下埋設で特殊な荷重がかかる場合（建築物、道路のきわ、がけ下など）

建築物、道路のきわ、およびがけ下等は、非常に大きな土圧が中和槽にかかりますので、次の要領で工事を行ってください。

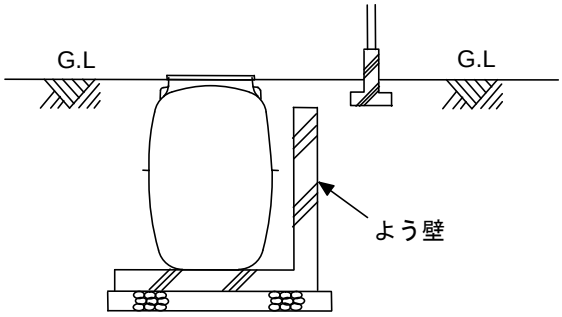
（１）設置場所が広くとれる場合

設置場所が広くとれる場合は、中和槽を建築物等から離して設置してください。



（２）設置場所が狭い場合

設置場所が狭く、中和槽を建築物等から離して設置できない場合は、よう壁を設けてください。



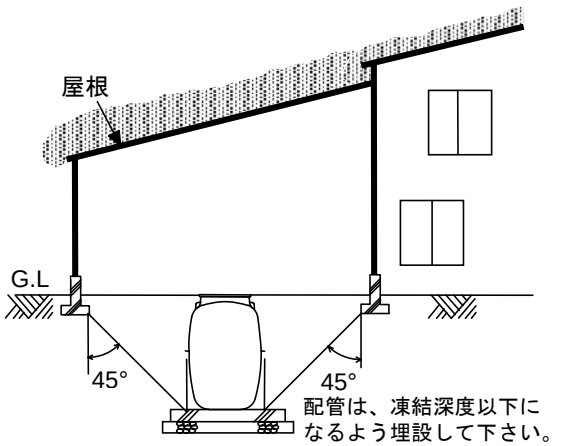
●よう壁の仕様は、よう壁にかかる荷重の大きさや荷重の方向によって異なりますので、構造計算を十分行って施工してください。

４－５. 寒冷地に設置する場合

特に、寒さが厳しい場所に設置する場合は、薬品が凍るおそれがあります。ユニットは建物の中で気温が極端に下がらない場所に設置してください。

４－６. 積雪地帯に設置する場合（地下埋設工事）

積雪が 1m を越える場合は、除雪するか、中和槽の上部に屋根囲い等を設けて、積雪による荷重が中和槽にかからないようにしてください。



屋根囲いの施工例

5．アフターサービスについて

5－1．保証期間と保証の範囲

1-1 保証期間

⑴ 装　置　本　体：使用開始日より３ヵ年
⑵ 駆動部・内部部品：使用開始日より１ヵ年
（駆動部はポンプ・動力制御盤などの設備類を含む）

1-2 保証の範囲

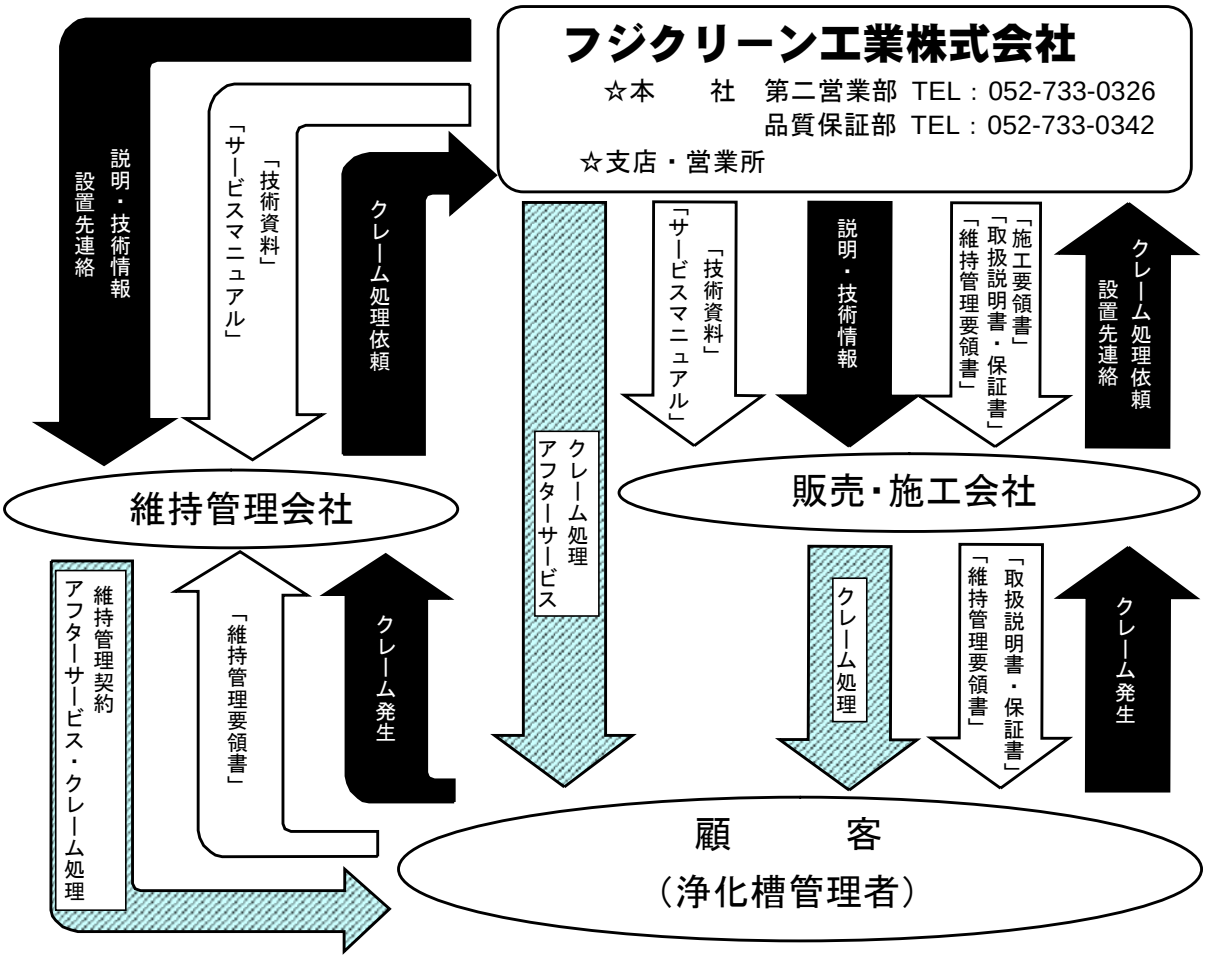
施工要領書に従って適正に設置され、竣工検査を完了したものが、製造上の責任に依って構造・機能に支障があると認められるときは無償にて修理します。

なお、離島及び離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。

また、次の場合は保証期間中であっても有償といたします。

⑴ 消耗品（薬品類）
⑵ 適切な維持管理がなされていない時
⑶ 適切な工事がなされていない時
⑷ 改造や不適切な修理による故障または損傷
⑸ 駆動部の取付場所の移動等による故障または損傷
⑹ 車両の通行･振動による故障または破損
⑺ 火災、地震、水害、落雷、雪害その他の天災地変による故障または損傷
⑻ その他取扱いが不適当であった場合

5－2．サービス体制



フジクリーンFJP型 工事のチェックリスト

設置工事が完了しましたら、このチェックリストで工事の適正を確認して下さい。確認後はこのチェックリストを取扱説明書、維持管理要領書と一緒にお客様にお渡し下さい。

設置先	住　　所	
	工事名称	
	型　　式	フジクリーンＦＪＰ　－　　型
	工事完了日	平成　　年　　月　　日

検　査　項　目	チェックのポイント	CHK
1．流入管きょおよび放流管きょの勾配	勾配は、1/100以上とられているか。 汚物や汚水の停滞がないか。	
2．放流先の状況	放流口への逆流のおそれはないか。	
3．誤接合等の有無	人工透析排水が中和槽に接続されているか。	
	雨水やその他の排水が中和槽に流入しないか。	
4．升の位置および種類	起点、屈曲点、合流点および直線部分については配管の内径の120倍を超えない範囲で、適切な升が設置されているか。	
	二重トラップになっていないか。	
5．かさ上げの状況	かさ上げは、30cm以内になっているか。	
	維持管理を容易に行うことができるか。	
6．中和槽本体の上部、 マンホール蓋 およびその周辺の状況	保守点検を行える場所が確保されているか。	
	保守点検の支障となるものが置かれていないか。	
	マンホール蓋は適正な仕様が設置され、割れなどがないか。また、がたつきが無く、マンホール枠への収まり状態は良いか。	
7．漏水の有無	漏水が生じていないか。	
8．中和槽本体の水平の状況	水平が保たれているか。	
9．中和槽内設備の異常、破損および固定の状況	撹拌ポンプの設置状況に問題はないか。	
	配管に損傷がないか。	
	ｐＨ電極の破損はないか。	
	薬液吐出位置は適正か。	
	槽内に砂やゴミなど異物はないか。	

検　査　項　目	チェックのポイント	CHK
10．各装置の設置	中和槽架台及び制御盤がアンカーで固定されているか。	
	ボルト、ナットのゆるみがないか。	
	薬液ホースがポンプに確実に接続されているか。	
	ケーブルの配線は間違っていないか。	
	タンクの上部に屋根があるか。	
	近くに散水栓が設置されているか。	
※　試運転調整は維持管理要領書に基づいて行ってください。		

上記のとおり確認したことを証します。

平成　　年　　月　　日

工事担当者名　　印

MEMO

施工要領書

美しい水を守る

フジクリーン工業株式会社

本社／名古屋市千種区今池４丁目１番４号　〒464-8613　http://www.fujiclean.co.jp/
〈第二営業部〉Tel.（０５２)７３３-０３２６　〈品質保証部〉Tel.（０５２)７３３-０３４２

フジクリーンサービス網

区分	名称	Tel.
北海道東北	**札幌支店**	(011)882-1222
	東北支店	(0223)24-4122
	青森営業所	(017)766-8171
	秋田営業所	(018)865-0748
	山形営業所	(023)631-7199
	古川営業所	(0229)28-3313
	仙南営業所	(0223)24-4146
	福島営業所	(024)553-7390
	郡山営業所	(024)944-7780
	㈱フジクリーン青森	(017)761-1711
	フジクリーン岩手㈱	(019)684-6363
関東	**東京支店**	(03)3288-4511
	宇都宮営業所	(028)647-0055
	埼玉営業所	(048)851-6811
	茨城営業所	(029)839-2271
	群馬営業所	(027)327-5611
	千葉営業所	(043)206-5171
	成田営業所	(0476)23-2122
	㈱フジクリーン茨城	(029)254-7777
	入間フジクリーン㈱	(042)556-2862
	㈱正徳フジクリーン	(03)3376-2374
	中央フジクリーン㈱　本社	(042)625-8575
	〃　横浜営業所	(045)341-2761
	〃　秦野営業所	(0463)75-4152
	〃　神奈川営業所	(0467)74-3935
北陸甲信越	山梨営業所	(055)275-9300
	松本営業所	(0263)27-2080
	新潟営業所	(025)271-8668
	富山営業所	(076)429-7461
	北陸営業所	(076)240-0170
	福井営業所	(0776)35-0631
	新潟フジクリーン㈱　本社	(0258)36-1871
	〃　上越支店	(025)545-1033
	北陸フジクリーン㈱　本社	(076)429-4170
	〃　金沢営業所	(076)240-0141
	フジクリーン福井㈱	(0776)34-7123
東海	**名古屋支店**	(052)733-0250
	沼津営業所	(055)924-0064
	静岡営業所	(054)286-4145
	浜松営業所	(053)465-4358

区分	名称	Tel.
東海	岐阜営業所	(058)274-1011
	四日市営業所	(059)339-2634
	津営業所	(059)235-4631
	愛知フジクリーン㈱　本社	(0566)81-1122
	〃　名古屋支店	(052)612-8271
	〃　豊橋支店	(0532)88-5871
	〃　尾張営業所	(0568)26-6333
近畿	**大阪支店**	(06)6396-6166
	阪奈営業所	(0742)61-8401
	和歌山営業所	(073)422-3634
	滋賀フジクリーン㈱	(077)553-3115
	兵庫フジクリーン㈱	(0797)81-1685
中国四国	広島営業所	(082)843-3315
	鳥取営業所	(0858)37-4770
	松江営業所	(0852)22-4086
	高松営業所	(087)815-0682
	松山営業所	(089)967-6123
	高知営業所	(088)837-8021
	岡山フジクリーン㈱　本社	(086)243-8881
	〃　津山営業所	(0868)28-5700
	フジクリーンシマネ㈱	(0852)24-3952
	フジクリーン山口㈱　本社	(083)973-0788
	〃　岩国営業所	(0827)43-1118
	〃　下関営業所	(083)263-3718
九州	**福岡支店**	(092)441-0222
	福岡営業所	(092)441-0222
	佐賀営業所	(0952)31-9151
	熊本営業所	(096)387-3521
	大分営業所	(097)558-5135
	中津営業所	(0979)24-6937
	宮崎営業所	(0985)32-3064
	鹿児島営業所	(099)257-3501
	川内営業所	(0996)27-2905
	鹿屋営業所	(0994)43-4437
	フジクリーン久留米㈱	(0942)44-4777
	フジクリーン長崎㈱	(095)849-1811

（平成21年10月21日現在）

※名称・電話番号は変更する場合がありますのでご了承ください。